

稲作ワンポイントアドバイス(No5)

令和3年7月12日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

1 生育等の状況

※調査データの平年値と比べ

	草丈	茎数	葉齢	葉色
コシヒカリ	平年並～やや長い	平年並～やや多い	平年並	平年並
ひとめぼれ	長い	やや多い	早い	平年並
きぬむすめ	長い	やや多い	平年並	平年並
あきだわら	長い	平年並	早い	平年並

- ・長門管内で葉いもちが発生しています。
- ・多くのほ場でセジロウンカの飛来を確認しました。
- ・長門の調査ではトビイロウンカは未確認です。トビイロウンカの初確認は平年7月10日であること、飛来に好適な気象条件が続いていることから、引き続き注意が必要です。
- ・出穂期（ほ場のうち50%で穂が見えたとき）の予想

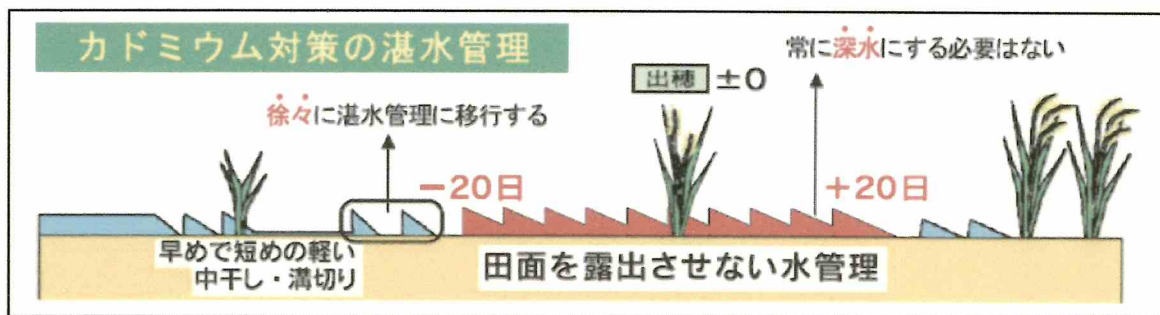
品種	移植期	出穂期の予想	調査ほ場の出穂予想
コシヒカリ	5月上中旬	平年並～やや遅い	7/26～31 ほ場の中でバラつき大きい
ひとめぼれ	5月中下旬	前年並 (平年よりやや遅)	8/1～5 ほ場の中でバラつき大きい

2 今後の管理のポイント

(1) コシヒカリ・ひとめぼれ

○水管理

- ・カドミウム吸収抑制のため、湛水管理を行いましょう。



○肥培管理

●緩効性肥料（元肥一発肥料）の場合

- ・極端に葉色が薄い場合（葉色3.5以下）は、出穂前13日（遅くとも出穂前10日まで）に、窒素量で1～1.5kg/10a程度、追肥を行いましょう。

●分施の場合及び穂肥一発肥料（穂づくり640）の場合

	分施（穂肥1回目）／穂づくり	分施（穂肥2回目）
コシヒカリ	出穂前18日頃（幼穂1cm）	出穂前13日頃
ひとめぼれ	出穂前20日頃（幼穂5mm）	出穂前13日頃

- ・穂肥1回目が早すぎると倒伏の危険性があり、2回目が遅すぎると（出穂前10日以降）食味低下のおそれがありますので、適期施用しまししょう。

- ・穂肥施用量は長門大津稲作栽培指針（別冊）P.1～2と下表を参考にしてください。

分施の場合		葉色	
		いつもより濃い	薄い（カーブ3.5以下）
茎数	多過ぎる (25本/株以上)	穂肥施用しない	1回目の穂肥量を減らす
	少ない	葉色が下がるのを待って1回のみ穂肥施用	食味重視の場合：暦どおり 収量重視の場合：2回目の穂肥をやや増やす

【参考】幼穂と出穂前日数の関係

※気象条件によって数日変動します

幼穂の長さ	出穂前日数	外形
肉眼で見えるが1mm以下	26日前	止葉の下の葉抽出
1～2mm	24日前	
5mm	20日前	
10mm	18日前	止葉抽出
4～6cm	13日前	(穂ばらみ始め)
20cm	6日前	

(2) きぬむすめ・ヒノヒカリ・あきだわら

○水管理（地域の用水の状況や水利のルールに基づいて管理を行って下さい）

茎数が18本/株程度になったら速やかに「中干し」を行いましょう。

中干し後に急に湛水すると根を傷めるため「走り水」を行い、その後は「浅水」と自然落水（足跡の水がなくなる程度）を繰り返しましょう。

(3) 病害虫・雑草の管理等

病害虫発生予報（7月1日 山口県病害虫防除所発表）

葉いもち	平年並	ヒメトビウンカ	平年並	コブノメイガ	平年並
紋枯病	平年並	セジロウンカ	やや少	斑点米カメムシ類	平年並
		トビイロウンカ	平年並		

- ・葉いもちの病斑を見つけたら速やかに防除してください。（赤枯れ症状と似ているので注意）
- ・梅雨明け頃まではウンカ類の飛来が続くので、ほ場での発生や病害虫情報に注意してください。出穂前防除は必ずウンカ類に適用のある殺虫剤を散布してください。
- ・雑草が多いほ場では、使用時期・方法を必ず確認の上、後期除草剤で早めの処理を行いましょう。
- ・カメムシの加害抑制のため、出穂2週間前までに畦草を刈り終えましょう。

長門の水稲の病害虫発生状況、生育状況等をLINEにより発信しています。

